

『履修の手引き』 記載内容の変更について

平成 28 年 4 月より、平成 27 年 4 月『履修の手引き』記載内容のうち下記の点の変更となります。

記

1. 定期試験時間 (p. 5)

平成 28 年度 S1 ターム開講科目の定期試験（本試験）より、試験時間が各時限とも 10 分繰下げとなります。

時限	平成 28 年度以降 定期試験（本試験）時間 ※試験時間 90 分の場合	（参考 1）平成 27 年度 定期試験（本試験）時間 ※試験時間 90 分の場合	（参考 2）授業時間
1 時限	8 時 40 分 ～ 10 時 10 分	8 時 30 分 ～ 10 時 00 分	8 時 30 分 ～ 10 時 15 分
2 時限	10 時 35 分 ～ 12 時 05 分	10 時 25 分 ～ 11 時 55 分	10 時 25 分 ～ 12 時 10 分
3 時限	13 時 10 分 ～ 14 時 40 分	13 時 00 分 ～ 14 時 30 分	13 時 00 分 ～ 14 時 45 分
4 時限	15 時 05 分 ～ 16 時 35 分	14 時 55 分 ～ 16 時 25 分	14 時 55 分 ～ 16 時 40 分
5 時限	17 時 00 分 ～ 18 時 30 分	16 時 50 分 ～ 18 時 20 分	16 時 50 分 ～ 18 時 35 分
6 時限	18 時 55 分 ～ 20 時 25 分	18 時 45 分 ～ 20 時 15 分	18 時 45 分 ～ 20 時 30 分

繰り上げ試験の試験時間は、授業担当教員から特に指示がない限り、授業時間と同じです。

平成 27 年度 A セメスター開講科目の追試験（4 月 25 日～27 日実施）は平成 27 年度の試験時間で実施しますので、注意してください。

2. セメスター毎の履修登録単位数の上限（キャップ制） (p. 10)

「(例外) 履修登録単位数の上限に含まれない科目」に「数理科学基礎（補修）」が追加されます。

3. 展開科目の履修 (p. 21)

「開講ターム・セメスター」に、「1 A, 2 S」に加えて「2 A」が追加となります。

4. 総合科目の履修制限の例外 (p. 22)

「II 4 (1) 履修制限に関する注意事項及び例外」の《例外：履修に関する制限事項が適用されない科目》が以下のとおり変更となります。（下線部を追記）

【変更前】① L 系列の大科目 [国際コミュニケーション] 中の「外国語初級」「外国語中級」「外国語上級」

【変更後】① L 系列の大科目 [国際コミュニケーション] 中の「外国語初級（外国語初級（演習）①）」「外国語初級（演習）②を除く）」「外国語中級」「外国語上級」

（次ページに続く）

5. 総合科目の構成及び授業内容概要 (pp. 65~80)

総合科目について、2科目が新設されるとともに、開講予定セメスター・タームまたは単位数が変更される科目があります。詳細は下表のとおりです。(下線部が変更点)

区分	系列	大科目名	科目名	科目の授業内容	開講予定 セメスター・ターム	単位数
変更	C	法と社会	日本国憲法	(変更なし・省略)	<u>S/S1/S2</u> 及び <u>A/A1/A2</u>	2
変更	D	環境・資源 農学	放射線環境科学	(変更なし・省略)	<u>A</u>	2
新設	E	物質科学	<u>分子化学概論</u>	<u>多様な最先端化学研究の礎となる基礎概念や新しい技術を学ぶ。</u>	<u>S</u>	<u>2</u>
変更	E	生命科学	分子生命科学	(変更なし・省略)	<u>A</u>	<u>2</u>
新設	E	生命科学	<u>現代生物学</u>	<u>現代生物学では生命の基本原理とその多様性の解明を目的として、分子からオルガネラ、細胞、組織、器官、個体、集団に至るさまざまなレベルで、多様な生命現象を対象とした研究がなされている。今まさに進展しつつある最先端の生物学について、その基礎を学ぶ。</u>	<u>S</u>	<u>2</u>
変更	E	生命科学	人類科学	(変更なし・省略)	<u>S</u>	<u>2</u>
変更	E	生命科学	生物情報科学	(変更なし・省略)	<u>S</u>	<u>2</u>
変更	E	生命農学	<u>応用動物科学Ⅰ</u> (注1)	<u>哺乳動物が持つ複雑で雑多な生命現象、新たなバイオテクノロジーについて最新の情報を含め、オムニバス形式で解説する。主な授業内容は、生物学、発生工学など動物の遺伝子操作、ペットの問題行動など動物の行動学、その他、生殖生物学、細胞生物学にわたる広範な話題が提供される。</u>	<u>S</u>	<u>2</u>
変更	E	生命農学	<u>応用動物科学Ⅱ</u> (注1)	<u>哺乳動物は種によって体の形態や構造、生理機能、また生態や習性等は異なる(種差)。種差は健康な状態だけではなく、病的な状態においても認められる。多様な種差について比較生物学の立場から考察する。</u>	<u>A</u>	<u>2</u>

(注1) 総合科目E系列「応用動物科学」は、Sセメスター開講分が「応用動物科学Ⅰ」、Aセメスター開講分が「応用動物科学Ⅱ」となる。平成27年度Sセメスターに「応用動物科学」を履修した者が「応用動物科学Ⅰ」を履修すること、平成27年度Aセメスターに「応用動物科学」を履修した者が「応用動物科学Ⅱ」を履修することは、いずれも認められない。なお、平成27年度に履修した「応用動物科学」については、Sセメスター開講分が「応用動物科学Ⅰ」、Aセメスター開講分が「応用動物科学Ⅱ」として、成績表に記載されている。

以上